

第8回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会 議

期 日：令和6年12月16日（月） 15：30～17：00

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

- （委 員） 金谷会長（教育長）、京角副会長、寺島委員、筏井委員、
金委員、中澤委員、山田委員、古城委員、岡山委員、浦島委員
- （事務局） 久々江教育委員会事務局長
星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長
六渡事務局次長
佐藤学校教育課長
酒井副主幹、川渕係長、稲田主査、
道上主任、佐々木主事（学校教育課）
鳥本課長補佐、青木主任、岡本主事、
小林スポーツ推進コーディネーター（生涯学習・スポーツ課）
谷口専務理事、京角事務局長、小田主事
（（公財）射水市スポーツ協会）

2 概 要

・開会のあいさつ（金谷教育長）

・議事進行（金谷会長）

・報告事項

（1）令和6年度実施モデル9部活動の活動状況について

（2）モデル8部活動の中間報告（アンケート結果）※ソフトボールを除く

（3）令和7年度実施モデル部活動について

【委員からの意見等】

（委員）

地域部活動が大会に参加することに制限はあるのか。

（事務局）

地域部活動で大会参加となると事務手続きや大会の引率を負担と感じる団体もある。一方で大会引率もできるという意見や、練習のみしか関わることができないという意見もあり、競技団体ごとに異なっている。また、現在の県中体連の規定では、地域部活動の活動実績や指導者資格を求められるなど大会に参加しづらいルールになっている。

(委員)

地域部活動として大会に参加しているのは何競技あるのか。

(事務局)

バスケットボールの1競技のみである。

・協議事項

(1) 令和8年度以降の学校部活動の在り方について

【委員からの意見等】

(委員)

令和8年度以降の学校部活動の在り方の見通しは、学校にも共有していただきたい。学校単位でも地域移行について考えていく。また、保護者や子どもたちにも共有し、「地域移行」への準備に向かうことができる。

大会参加の在り方については、国やスポーツ庁の方針が全国中体連に行き届いていないため、市中体連だけでは限界を感じる。行政のお力添えいただきたい。

(委員)

これまでのモデル事業の中でゴールを模索してきた。モデル事業の成果を生かし、ゴールを目指していけるとよい。また、地域移行の方針は学校だけでなく子どもや地域への共有も大事である。今の地域部活動に参加している子どもたちが大人になれば、将来地域部活動の指導者になるかもしれない。これから社会の一員になっていくためにといった話も子どもたちにできるとよい。また、これから活動していくうえでお金の話は避けて通れないので、大きな方針だけでなく、お金の方針も共有することが大切である。

(委員)

総合型地域スポーツクラブはいずれ始まる部活動の地域移行の受け皿となるように設立されたと聞いている。総合型地域スポーツクラブをもっと活用してほしい。ただ、活動場所の確保が難しくなってくる。学校の体育施設を利用することが考えられるが、総合型地域スポーツクラブと学校や地域をつなぐコーディネーターがいるとよい。

(委員)

この在り方検討会が始まったころからゴールが知りたいと思っていた。スポーツクラブの教室運営において競技団体の指導者と話す機会も多いが、その人たちもゴールが知りたいと言っている。目標が設定されていると現場も動きやすい。総合型地域スポーツクラブでは中学生のニーズに合わせた教室を展開している。大会優勝を目指す競技スポーツとしてのレベルから、生活の中にスポーツを取り入れる生涯スポーツのレベルまで受け入れることができる。

(委員)

モデル事業を進めてきたおかげで、子どもたちや保護者もなんとなく地域移行について認識し、理解できてきたと思う。ただ、将来どうなるのか不安な声もあったので、目標やゴールが示されていると活動がしやすい。

吹奏楽は活動場所や楽器のことなど各学校の顧問が詳しいのが現状である。互いに共有しながら、慎重に地域移行を進めていきたい。

(委員)

これまで学校が持ちすぎていた。これからは発想の転換が求められている。ゴールの設定も大事だが、その方針をいつ発表するかも検討していく必要がある。また、ゴールまでの道筋や段階的な大まかな計画を同時に示すべきである。

(委員)

中体連の大会について方針は決まっているのか。

(事務局)

中体連については全く示されていない。

(委員)

確定していることは、ハンドボールや相撲などの競技は廃止される予定である。また、北信越中体連の大会は令和11年までは開催が決定している。

・その他

今後のスケジュールについて説明。